

部会グループ会議における意見と県の対応

資料3

グループ会議A

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について					
PJ1 子ども・若者					
1	米田委員	評価の手法について	KPIは数値を把握しやすいものが設定されがちな傾向がある。数が増えていくための取組や分析だけでなく、例えば、医療的ケア児であれば、相談件数は伸びているが、繰り返し相談がきているものがどの程度か、また相談された案件がどの程度市町村に繋がれているのか読み取りにくい。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
2	矢島委員	二次評価について	二次評価としては、KPIのそれぞれの持つ意味、施策の中で重要度が高く公的機関として目標に対して責任を持つべきポイントについて達成できているかということを考慮して判断を行うべき。 <u>KPIは公的機関がコントロール可能な施策に基づく目標でありながら、待機児童問題は過去から取り組んできた事業にもかかわらず、目標を達成していないことは重く受け止めるべき。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	伊達委員	一次評価における評価の視点について	社会が成熟してきた結果生じる課題、把握すべき課題とデータの読み取り方がリンクしていない。 数値の増減が単純に課題なのではなく、課題の背景がどこにあるのかということや県民が読み取れるかどうかが重要。 <u>複数のデータの背景に点在している課題や根本的な課題についても言及することが必要ではないか。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
4	堀越委員	構成施策B 評価分析について	KPI「医療的ケア児等コーディネーター養成研修の修了者数」が増えていることは良い傾向だが、 <u>コーディネーターが医療的ケア児のためにどういった資源の獲得、チームの構築が出来たかは定量的にも把握が可能。定性的な分析をする前にもう一段深掘りした定量的な分析が必要ではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	坪谷委員	構成施策B 評価分析について	KPI「子どもの意見を聞くための意見表明等支援員の登録者数」について、 <u>支援員がいることでどれだけ子どもの意見を反映できたかということ把握することが重要。</u> <u>支援員が何箇所の子童養護施設を回れたのか、何人の声を聞いたのかという中間的な定量的データの分析も必要。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
6	米田委員	構成施策B 評価分析について	意見表明権に引きずられ、社会的養護の分野に限定されがちだが、 <u>すべての子どもの意見を聞くことが重要。意見表明に前向きな子どもの声を受け止めがちなが、社会に対して諦めがちな子どもの声も大事。そういった子どもたちの声を聞くために社会関係資本や信頼感の構築が必要となる。</u> <u>子どもが関係人口を増やす機会がどれだけあるかという視点で、子どもの居場所に関する取組が県内でどれだけ展開されているかということも定量的に把握が可能ではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ2 教育					
7	伊達委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	北欧では（デジタル化の弊害から）ICTの利用を小中学生に対して制限する動きが出ている。 <u>単純な数値だけではなく、質的指摘を踏まえて次の世代がよりネガティブな方向にならないようにしっかり調査をしてもらいたい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	伊達委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	教員の在校時間の分布は若い世代が時間が減るとベテランといった上の世代の時間外が増えるなど相関関係がある。また、若い世代も結局は家でやっていることもある。数値の変化にとらわれるのではなく、 <u>実質的にどのような影響があるのかということを見ないと課題の解決につながらない。</u> <u>今後の課題として、量的な変化が質的な変化にどう繋がっているか観察をしていくことが記載されているとよい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
9	米田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	不登校児童が増えていることを分析として書かれているが、まだ子どもが学びを選択するということまで至っていないという印象。 <u>昨今課題となっているのは子どもの不登校の支援をどうするか。フリースクールの費用を負担ができる家庭は学びの場を選択できるが、費用負担できない困窮家庭は実質的に選べない。今後の問題提起として触れてもらいたい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
PJ3 未病・健康長寿					
10	米田委員	構成施策A KPIの数値把握	KPI「地域の高齢者が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し「生きがいがづくり」「仲間づくり」をする「住民主体の通いの場」への参加者数」において、今後住民が主体的につながりを作れる場は重要になるので、この数値の把握のために、 <u>県独自で実態を把握する取組をやっても良いのではないか。</u>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
11	坪谷委員	構成施策A 用語について	<u>「健康経営」の定義が分からない。この意味が分からないと企業数が増えたことの意味が分からない。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の「用語集」に掲載しました。
12	坪谷委員	構成施策A データの取扱い	県内の企業数がどのくらいあり、そのうちのどの程度の割合なのか示す必要があるのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	※なお、構成施策CのKPI「看護職員5人以上の訪問看護ステーション数」の総数（県内の訪問看護ステーション数）については、記載が可能であったため記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
13	堀越委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	訪問看護ステーションや在宅医療支援診療所の充実が図られているが、特に、ヘルパー、訪問介護の担い手不足が大きな課題である。ヘルパー自身が高齢になっていることや、県西部での不足など県内格差が顕著。自宅で住み慣れたところで最期を迎えることはよいことだと思うが、介護度の高い方が自宅で最期を迎えるためには、 <u>医師、看護師とともにヘルパーの確保が喫緊の課題となるため、課題として触れてもらいたい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
14	堀越委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	在宅医療支援診療所が増えていく中、 <u>病院での臨床経験が短い医師が在宅医療の分野に進出するという課題が生じている。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
15	伊達委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	在宅医療の患者は希望ではなく、 <u>経済的理由から在宅を選択せざるを得ない患者も多い。自分自身で自分の老後の設計を考えていくことがより重要。</u> 介護疲れや介護離職など、多岐に複雑に絡み合う問題がある中で、 <u>介護に関する自身の問題を40～50代から考える必要がある。</u> 自分自身の介護のことを主体的に考えることで、 <u>これまでと異なる視点から根本的な課題の解決に近づけるのではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ9 生活困窮					
16	米田委員	プロジェクトへの位置付けについて	<p>「子ども食堂」は、子どもの貧困対策としての側面からPJ9の「生活困窮」に位置付けている経緯があると思うが、実態としては子供・若者の社会関係資本の構築機能が大きく、「生活困窮」のプロジェクトで扱うことに違和感を感じた。結果として貧困や困難を抱える子どもをキャッチしている実態もあるため、<u>本プロジェクトでも良いが今後の位置付けについては検討の余地があるのではないか。</u></p> <p>子ども食堂の件数は増えており、これからも登録が増えるよう取組を進めてもらえると良いと感じている。</p>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
17	堀越委員	評価の手法について	<p>指標「「生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てる社会だ」と思う人の割合」は、<u>神奈川県</u>の施策だけでなく、<u>全国</u>や<u>世界の状況</u>も影響を及ぼす中で、<u>数字の上がり下がりだけで一喜一憂すべきではない。</u></p>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
18	矢島委員	評価の手法について	<p>指標の数値は、県の施策だけで増減させることができるものではないという前提はあるが、そこを踏まえ<u>たうえでの評価が必要。</u>数値の高低ではなく、<u>最終的に目標を達成したかどうか</u>が重要。</p>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
19	伊達委員	データの取扱いについて	<p>ニーズ調査は、日本の国民的傾向としてネガティブに回答する傾向がある。</p> <p>2023年～2024年にかけては、ウクライナ情勢等もあり、夢や希望を持てる社会だと思ふ人の割合は低くなるはず。数値で目標を設定している以上、<u>県として責任を持つ必要があるが、背景について、どこまでが県の責任なのか切り分けて分析が必要。</u></p>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
20	伊達委員	構成施策A 現状について	<p>(子ども食堂に通うことで) いじめの原因になったり、無償で提供を受けるということについて、<u>抵抗を感じる子どももいるので、そういったことに配慮した取組を進めていく必要がある。</u></p>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
21	米田委員	構成施策A 現状について	<p>県内の子ども食堂の方々とはよく接する機会があるが、<u>こども食堂に来ている子供たちの感覚もすごく多様で、子どもたちと良い関係性を築いているところも沢山ある。</u></p>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
22	米田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<p>子ども食堂は民間の取組のため、基本的に県は民間の取組を応援していくスタンスであることから、<u>今後は子ども食堂の数だけでなく、いかに子ども食堂に来る子どもたちを地域で見守っていくことが必要ではないか。</u></p>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
23	玉田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<p>声を上げない、上げられない人へのアプローチが重要。</p> <p>現状は声を上げる手段を持っている人たちが声を上げている。<u>困窮世帯の子どもは声を上げる手段を持っていない。SNSも中学校以上など、小学生は声を上げられない。</u></p> <p><u>そういったところの声を拾い上げる方法を検討する必要がある。</u></p>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ10 共生社会					
24	坪谷委員	構成施策B KPIの設定について	KPI「多言語支援センターかながわ対応件数」の多寡をどう評価するかが問題。件数が減少傾向の現状では相談がそもそも少なくなっているのではないかという見方もできる。 <u>定住外国人が、コロナ禍後急速に増えている現状を踏まえれば、相談件数の目標を変更することも検討が必要ではないか。外国人定住人口に対する割合でみると、目標件数は減少してしまう。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
25	伊達委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<u>外国語コミュニティ内には情報ネットワークがあるので、そことの接点が取れているのかという視点でも分析が必要。</u> 外国人が増え、共生が進んでいること自体はポジティブなことであるが、特定の地域では社会問題も起きているため、ルールが正しい形で変化しているのかも重要。 一部外国人の行動がクローズアップされて全体の問題と扱われることもある。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
26	伊達委員	指標の設定について	指標「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方について「そう思わない」人の割合という指標は、個人の価値観の面もあるのではないかと。 <u>認めあうとはどういうことかをしっかり伝えたいと使わないと、意図しない形で反発を生むこともあるので、県として目指すべき方向性をしっかり伝えたいと説明をする必要がある。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
27	羅委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<u>外国人が日本で住む中で日本のことを理解すること、日本の住民が外国人を理解することの双方が大事。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
28	堀越委員	県民ニーズ調査 の設問について	県民ニーズの文言で気になるのは「夫・妻」という表現。 現在は同性婚の方もいるため、医療分野では配偶者、パートナーという表現にしているため、県でもそのような表現にした方がいいのではないかと。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

部会グループ会議における意見と県の対応

資料3

グループ会議B

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について					
PJ4 文化・スポーツ					
1	河野委員	構成施策B KPIの達成状況	KPI「県内総合型地域スポーツクラブの会員数」の達成率が低い理由が法人の事業移管に伴う特殊事業による変化であれば、注意書き等で伝えたほうがいいのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の「KPIの達成状況」に記載しました。 ※その他、達成率が著しく低い（60%未満）KPIについてはその原因や理由等を記載
2	海津委員	構成施策A 用語について	「マグカルドットネット」とは何なのか。一般の方が読むのであれば説明が必要ではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の「用語集」に掲載しました。
3	金川委員	KPIの出典	<u>KPIの出典の記載をお願いしたい。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	すべてのKPIに出典を記載しました。
4	河野委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	神奈川県「未病」の取組は、プロジェクト4「文化・スポーツ」と連動している。県として今後の方向性をどのようにしていくのが重要であるため、 <u>スポーツの実施率の向上やライフステージに応じた取組など、未病の内容を踏まえた取組の推進が必要ではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	山本委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	指標で「満20歳以上の人の週3回以上のスポーツ実施率」、「子どもの週3回以上のスポーツ実施率」を設定しているが、20歳以上はかなり範囲が広い。 <u>もう少し年代別に細分化したほうがいいのではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ5 観光・地域活性化					
6	海津委員	プロジェクトへの位置づけについて	観光と移住定住を同じ枠組みで評価することに違和感がある。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
7	河野委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	移住・定住やオーバーツーリズムの課題もあるが、KPIが順調に推移しているのので、二次評価として「順調に進んでいる」で良いのではないかと。二次評価は「順調に進んでいる」として、課題への対応をしっかりと書けばよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	海津委員	構成施策A KPIの設定について	KPI「海外向けSNSフォロワー数（総数）」の達成率が異常に高いが、KPIの目標は現状を維持するののか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
9	海津委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	(来訪者の宿泊ニーズに対して) 三浦半島地域にどの程度の宿泊施設があり、その推移も把握する必要があるのではないかと。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
10	山田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	構成施策Bの関連する統計データ「宿泊者の平均消費単価」の中に宿泊費が含まれているのであれば、箱根エリアなどは宿泊費が高いので、宿泊費を除いた「平均消費単価」を踏まえて各地域の分析を行ったほうがよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
11	金川委員	二次評価について	人口減少、転出超過という事情はあるが、4段階ある評価をその指標だけで下げてよいのかどうか。指標への寄与率として、評価を一段下げるだけの影響の大きいものなのか。	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	
12	海津委員	二次評価について	県ではプロジェクト全体の評価は、KPIの平均達成率を出発点に、構成施策の取組状況や各種データ等を総合的に評価している中、「関連する統計データ」を理由に評価を下げることに違和感がある。二次評価は「順調に進んでいる」で良いのではないかと。	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ6 経済・労働					
13	金川委員	構成施策C KPIの達成状況	KPI「県就業支援施設でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率」が目標に届かなかった要因として高齢者の就職ミスマッチが要因として断定的に書かれているが、そこまで断定的にして良いのかという印象を受けた。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策C「多様な人材の活躍促進」の「KPIの達成状況」の表記を改めました。
14	河野委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	どの県でも企業誘致を進めている中であって、本県の工場立地の件数が非常に増えている点は大きな成果ではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
15	河野委員	二次評価について	どの県でも企業誘致を進めている中であって、本県の工場立地の件数が非常に増えている点は大きな成果ではないか。工場の立地件数が増えているKPIの高い達成率からすれば二次評価は「順調に進んでいる」が妥当だと思う。	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	
PJ7 農林水産					
16	山本委員	一次評価 今後の課題	県内には水産業に関して三浦地域など水産が盛んな地域があることから、 <u>県としての課題があれば加えたほうが良い。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	一次評価の「今後の課題」及び「今後の方向性」に記載しました。
17	山田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	農林水産業への新規就業者数について、順調だと思うが、新規就農者の状況をみると10年くらい経つと離農者が出てくる事情もある。 <u>新規就農者数だけでなく、新規就農者が定着しているか、長期的な視点でデータを把握する必要がある。また、新規就農者が定着するための十分なサポートについて、検討する必要がある。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
18	河野委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	気候変動がある中で、 <u>気候変動の影響を受けない品種、生産方法や、AIによる生育予測などといった生産の効率的な仕組みの導入に対する支援は神奈川県にあるのか。そういった方向に進めていくための対応策、支援策はあるのか。今後の課題等に視点として取り入れると良い。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

部会グループ会議における意見と県の対応

資料3

グループ会議C

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について					
PJ8 脱炭素・環境					
1	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	電気自動車が増えていることなど、 <u>C02削減傾向から県の一次評価は妥当。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	
2	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	県の温暖化対策の計画は一昨年に改定したばかりだが、すでに削減目標達成は困難な状況。 <u>削減傾向についてはコロナ禍の数字。経済活動が活発になっているのでC02削減量はリバウンドする懸念があり注意が必要。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	県内では森林面積が減少傾向。世界的にも「30by30」という海と陸の30%以上を保護する動きがある。 <u>自然環境、生物多様性保全の観点からも検討が必要だと思う。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	県の最近の広報を見ていると、 <u>ペロブスカイト太陽電池を強く推しており、積極的にアピールしてもらいたい</u> が、 <u>具体的に導入を推進するような中身のある施策がなかなか見えてこない</u> 。 神奈川発という宣伝をしているので、 <u>中身のある導入推進策をお願いしたい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	中西委員	評価方法について	温室効果ガス排出量の削減目標値は理念優先の高い目標だと思っている。 評価について、 <u>目標の達成がなかなか見込めない中で「概ね順調」といってよいのか。</u> KPIは各取組の指標であるが、 <u>プロジェクトのねらいの達成という観点からは指標の動向をみるべき。指標の達成につなげていくためにも評価の方法は考えていく必要がある。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
6	山岸委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	KPIに「脱炭素を意識した取組を行っている人の割合」があるが、 <u>多様な主体で温室効果ガス排出量の削減目標に向けた取組を進めていく上では県内にある様々な企業の取組がより一層必要になるので、企業に対してアプローチしていく視点があつたほうがよいのではないか。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
7	小野島委員	一次評価の分析	<u>個人の意識啓発に関する記載がないので載せても良いのでは。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策A「多様な主体による取組の後押し」の分析中の表記を改めました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
8	中田委員	指標の設定について	指標「県内の温室効果ガス排出量の削減割合（2013年度比）」で2030年度の目標値を50%に設定した趣旨、背景にはどのようなことがあったのか。 県としてオールジャパンに具体的にどのように訴えかけていくつもりなのか。 広報はオールジャパンではない。神奈川県が他自治体や全国に対してどのように働きかけをするのかということ。受け身な印象になっている。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
9	国崎委員	指標の設定について	目標がかなり厳しいのであれば目標設定を下げることも考えられるが、そもそも「こうすれば目標を達成できる」という計画にするべきで、「 <u>目標が厳しいから</u> 」と簡単に目標値を下げては <u>評価の信頼性を失う</u> 。 初年度の評価であることを踏まえると、どのように達成していくのか前向きな姿勢も必要なのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
10	中西委員	二次評価について	評価は厳しくすることに意味がある。 県の総合分析の「KPIは順調だがその他で遅れている」という表現は次のとおりにするべき。 「 <u>指標の動向からは、プロジェクト全体の進捗は遅れている</u> 」と考えられるが、 <u>KPIの達成状況を踏まえ、県の取組の評価としては、一段階上げて「概ね順調」とする、という記載が本来は望ましい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	
11	小野島委員	今後の評価について	二次評価としてはKPIを発射点としないことが望ましいかもしれない。 初年度ということもあり、 <u>今後の経緯を見極めた上で、どこかのタイミングで「遅れている」という評価に下げることが適切ではないか。</u>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
12	原嶋委員	二次評価について	今後についての考え方もしっかり記載する前提で「概ね順調」とすればよい。 <u>コロナ後の2023、2024年度の数字が出てくれば相当厳しい結果になるだろう。</u> その際には次年度以降で遅れているという評価になるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ11 暮らしの安全					
13	中西委員	指標の設定について	指標「犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること」に関する満足度は最終年度の目標値を2024年度ですでに達成しているため、目標設定は難しいという印象を抱いた。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
14	中西委員	二次評価について	自主防犯活動団体の登録数の減少などは、コミュニティ衰退の現状などから自ずと見えてくる。県が頑張っても社会状況的にあがらない。そういったことを踏まえると、県評価は妥当だと思うが、コミュニティの課題について今後どう取り組むかが重要。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
15	山岸委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	昨今の状況をみると、犯罪者を生まないという視点も大事なのではないか。そのため、学校からの依頼による講習会が減少している点については課題として言及した方が良い。住民の生活に係ることなので、市町村との協力体制を推進するといった視点も踏まえる必要がある。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
16	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	事件が起きることを抑止するためにはコミュニティ社会の考え方が非常に重要。高齢者が加害者になるような事故、事件をどう防ぐのかという視点も必要。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
17	国崎委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	犯罪の有りようは社会環境によって大きく変わる。例：電動キックボードによる道交法改正など。現在の内容で判断してよいのかという難しさはある。一つ一つの問題への詳細な分析をしないと判断できないのではないかな。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
18	国崎委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	交通事故の死者数について高齢者と子どもどちらが多いのかや、講習を誰にどうやれば効果が出るのかといったことを考えていく必要がある。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
19	国崎委員	二次評価の方法	今後、年を経るごとにどのように評価すればいいのかが難しいと感じた。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
20	小野島委員	KPIの設定について	KPIの最終目標を達成しているものについて、見直しの方向性などについて、今後の対応として分析が必要ではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
21	国崎委員	KPIの設定について	犯罪はいのちの問題に直結するものであるため、目標の見直しも必要ではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
22	国崎委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	消費生活出前講座の回数を増やしても安全・安心に直結するわけではない。参加者について、受講から一定期間たって安心して暮らせているかという追加調査が必要。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
23	国崎委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	住居侵入に関して、高齢者を取り巻く環境について記載を盛り込むと良い。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ12 危機管理					
24	原嶋委員	KPIの設定について	KPI「遊水地や流路のボトルネック等の整備個所数」は、県ができる事業をどれだけできるのか、ということであり、達成率100%は当然。KPIごとに重みづけは必要。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
25	中西委員	二次評価について	<u>KPIの達成率上、順調という評価は妥当と考える。災害の備えに関する満足度は昨今の災害事情に左右される部分なので、増減があるのはやむを得ない。県としてハード整備でできることはしっかりやったうえで、県民の防災意識向上に向けた働きかけ等、県としてできることは必要に応じてしっかり取り組んでほしい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
26	中田委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	企業でも職員の自己評価は高め、上司の評価は厳しめになる傾向。二次評価でどう掘り下げるか。 <u>住民が災害発生時に頼りにするのは市町村。県と市との連携の状況を評価に盛り込んだ方が良い。</u> <u>県が市にどのように働きかけを行ったかということを今後分析してもらいたい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
27	山岸委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<u>住民のいのちに直結するプロジェクトなので、市町村との連携について、今後の方向性に記載してほしい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
28	国崎委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	ビックレスキューへの参加等が増えていても、これで県民の意識が向上していることが計れるのか。指標の向上には繋がらない。動員すれば参加の目標は達成するが、防災の準備に関する実態とは乖離してしまう。 <u>自助の促進や災害救助対応力の強化に対応する取組内容が見当たらないので、今後の課題と対応の方向性に記載してほしい。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
29	中西委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	行政としてできることはやっているが、 <u>個人にアプローチする工夫について記載が必要。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
P13 都市基盤					
30	中西委員	二次評価について	指標は現況値よりも改善傾向であり、県の一次評価は妥当ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に反映しました。	
31	中西委員	KPIの設定について	KPI「自動車専用道路の供用開始箇所数」の目標値の1に対して、実績値が0となっていることで平均達成率が大きく影響を受けるなどの不自然さがある。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
32	中西委員	評価方法について	ソフト施策などKPIが設定されていないものについては、定性的な分析が必要であり、その評価も踏まえ、最終評価する必要があるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
33	中西委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	構成施策の名称にある、「魅力あふれる」という質的なところの成果がなかなか見えにくい。 建設費の高騰などもあり工事が遅れ気味であることは理解するが、そこも踏まえつつ、計画どおりに整備を進めていただきたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
34	中田委員	指標・KPIの設定について	1件の目標値に対して実績値が0件で達成率を0%のままにしておくのでは説明責任を果たせない。 指標の動向「「自動車でスムーズに移動できること」に関する満足度」も目標20%では低い。県民のニーズをもっと捉えていく必要がある。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
35	国崎委員	構成施策A KPIの記載について	1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅が県内にどれくらいあるのか母数を示す必要がある。母数を意識した記載を求めたい。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	KPI「1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅におけるホームドア設置駅数（累計）」に、県内の1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅数を記載しました。 ※その他、総数の記載が可能なKPIについては同様に対応
36	国崎委員	構成施策B KPIの設定について	インクルーシブ遊具も県内公園で1箇所の整備では十分でない ので、KPIの目標達成率100%だからよいとはならない。 何をもって目標の達成とするのかという課題があり、目標値の見直しも必要だと感じる。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
37	山岸委員	県による一次評価について	「今後の方向性」の記載がプロジェクトのポイントをスライドさせただけの記載になっている。 <u>分析が不十分なので、次年度以降どうするのか具体的な提案について記載した方がよい。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	一次評価の「今後の方向性」を修正しました。
38	山岸委員	構成施策B 主な事業の取組状況	主な事業の取組状況のうち、「 <u>流域下水道の幹線管渠内部の点検延長</u> 」や「 <u>県営上水道の管路の漏水点検延長</u> 」について、 <u>総延長としてどのくらいあるのか母数を示す必要がある。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策Bの「主な事業の取組状況」 「流域下水道の幹線管渠内部の点検延長」、「県営上水道の管路の漏水点検延長」に総延長を記載しました。
39	原嶋委員	構成施策B 分析及び主な事業の取組状況	都市基盤の整備には、官だけでなく民間もある。 KPIの達成状況に加えて、 <u>都市計画や補助金などの行政的な手法が都市基盤の整備にどのようにアプローチしているのか記載していく必要がある。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策Bの「分析」及び「主な事業の取組状況」に市街地再開発事業等の補助などについて記載しました。
40	原嶋委員	二次評価 今後の課題と対応の方向性	<u>都市基盤の整備は、脱炭素や環境等の課題と密接に関係があるので、そういった視点での具体的な推進策についてより深めていく必要がある。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
41	小野島委員	評価方法について	(次年度に向けての課題として) <u>KPIが0%であることをどう評価するのか検討していく必要がある。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
42	小野島委員	指標の設定について	(次年度に向けての課題として) <u>指標の「自然や歴史・文化、景観などの特性を生かしたまちづくりが行われること」に関する満足度」に対して県の取組があまり書かれていないので、具体的な県の取組を記載する必要がある。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	